

日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科卒業生の在学中の学業への取り組み、
教育・学生生活に対する満足度、および卒後の自己啓発

—卒業生の動向調査から（その1）—

高橋美岐子¹⁾ 藤沢 緑子²⁾ 佐藤 考司³⁾ 村上 照子⁴⁾

**Attending school on studies, satisfaction ratings at education and student
life, and personal growth after Sots in Japanese Red Cross In Akita
Junior College of the Care and Welfare Department**

- Trend Survey of Graduates (First Report) -

Mikiko TAKAHASHI Noriko FUJISAWA Koji SATOU Teruko MURAKAMI

要旨：

本研究は、卒業生の在学中の学業への取り組み、教育・学生生活に対する満足度、卒後の自己啓発の状況を把握することを目的とし、本学科卒業生第1～9期生を対象に無記名の質問紙調査を実施した。234名から回答が得られ以下のことが明らかになった。

1. 在学中に習得した能力は、「倫理観」、「共感できる感性」、「人間、生活、社会への関心を持てる力」の項目で高く、「自己研鑽」、「創造性の豊かさ」、「主体的」の項目で低い傾向にあった。また、在学中に学業を諦めようと思ったことがある人は12.8%で、1年次が80.0%、理由は「授業に関すること」が多かった。
2. 在学中の教育・学生生活の満足度は、設定した23項目中、平均値が4.0以上の項目は6項目、3.0未満の項目は1項目であった。
3. 卒後の資格取得者、進学者、職能団体・学会への加入者は少なかった。
専門的知識・技術習得の希望は「医学に関する知識」が多かった。また、介護福祉専門職に必要な資質は「適正な観察力と判断力があること」、「利用者を理解する態度をもっていること」、「人間尊重の価値観を持っていること」が上位を占めていた。

キーワード：介護福祉専門職、学生生活満足度、自己啓発、卒後教育

Summary : We surveyed by questionnaire in the 1st-9th classes' graduate of our school. We surveyed states of a trend of graduate, an approach of study at school, a satisfaction with education, a satisfaction with school life and their self-development after school. The purpose of this study is to understand them . 234 graduates responded to our survey. The following results were obtained.

1. In questions about abilities they got at school, it is good in questions about "ethical sense"," ability of identify themselves with others" And "ability of caring for human and society". It is not good in questions about "self-study" "creativity", and "identity". 12.8% graduate tried for drop out at school. And its 80.0% reason was "about lessons".
2. We put 23 questions about satisfaction with education and their school life.6 questions showed over 4.0 points on the average. A question showed less than 3.0 points.
3. A few graduate joined employment association or institutes. Also a few graduates got other licenses and went to higher schools.
They wished to study about "medical knowledge" in questions about special knowledge and technical training. "Proper observation and judgment"," understand users" and "respect humanity" ranked high in questions about special abilities for expert of care and welfare.

Key Words : Care and Welfare profession, student life satisfaction rating, and personal growth and postgraduate education

介護福祉学科 1) 4) 教授 2) 講師 3) 助手

本研究は、平成18年度日本赤十字秋田短期大学共同研究費助成による研究の一部である。

はじめに

日本赤十字秋田短期大学（以下、本学とする）は開学から10年以上経過し、本学介護福祉学科（以下本学科とする）は1期生から10期生まで500名を越える卒業生を送り出している。平成12年に卒業生を対象として仕事に対する意識調査を実施しているが、卒業生の動向についての調査は実施していない。

そこで、本学科卒業生の就業状況、在学中の学業への取り組み、教育・学生生活の満足度、卒後の自己啓発などを把握する目的で調査を実施した。第1報では、本学科在学中の学業への取り組みと満足度、卒後の自己啓発の状況について報告する。

I. 研究目的

本学科在学中の学業への取り組みと満足度の傾向、卒後の自己啓発の状況を明らかにし、本学科の課題と今後の教育、卒後教育について示唆を得る。

II. 研究方法

- 1) 調査対象：本学科卒業生第1期生から9期生までの482名
- 2) 調査期間：平成18年2月
- 3) 調査方法：質問紙調査（郵送法）
- 4) 質問紙の作成・内容：質問紙は先行研究を参考に研究者間で内容を検討し作成した。
 - ①回答者の属性：性別、年齢、現在の居住地、卒業年、入学選抜種別
 - ②本学志望の理由、本学入学希望の程度、介護福祉士志望の理由
 - ③在学中の学業への取り組みと教育・学生生活への評価：学生生活への満足度、在学中に習得した能力、学業継続について、本学への期待
 - ④卒後の自己啓発：卒後の資格取得、進学状況、研修等の体験、所属団体、今後の知識、技術の習得、介護福祉専門職に必要な資質
- 5) 倫理的配慮：調査目的・方法、無記名で個人が特定されないこと、個人評価を目的とするものではないこと、結果は統計的に処理し調査目的以外には使用しないことを書面で明記した。
- 6) 分析方法：①単純集計により各項目で度数分布を行った。②学生生活の満足度は5段階評価とし、5点から1点の得点を与え平均値を求めた。③理由などの自由記述は共同研究

者で意味内容毎に分類し、カテゴリー化した。

III. 結果

本学科卒業生第1期生から9期生までの482名中、234名（48.5%）から回答が得られ、それを分析対象とした。

1. 回答者の属性（表1-1、表1-2、表1-3）

表1-1 回答者の属性 N=234

	20代	30代	40代	50代	合計
男性	44(18.8)	3(1.3)	0(0)	1(0.4)	48(20.5)
女性	176(75.2)	7(3.0)	0(0)	3(1.3)	186(79.5)

人数 (%)

表1-2 回答者の属性（居住地） N=234

居住地	回答数(%)
1. 秋田県	201(85.9)
2. 秋田県以外の東北5県	23(9.8)
3. その他	10(4.3)

人数 (%)

表1-3 回答者の属性（卒業年次） N=234

卒業年次	一般	推薦	社会人	NA	合計
9	15	1	0	0	16
10	10	4	1	0	15
11	12	12	2	0	26
12	9	12	1	0	22
13	10	12	3	0	25
14	12	24	0	1	37
15	7	21	0	0	28
16	11	18	1	0	30
17	8	24	1	0	33
NA	1	1	0	0	2
合計	95(40.6)	129(55.1)	9(3.8)	1(0.4)	234(100.0)

人数 (%)

回答者は女性186名（79.5%）、男性48名（20.5%）であった。年齢は20代が220名（94.0%）、居住地は秋田県内が201名（85.9%）であった。

卒業年は、平成14年度、17年度、16年度の順に多かった。

入学選抜種別では、234名中一般入学試験での入学者（以下『一般』とする）95名（40.6%）、推薦入学試験での入学者（以下『推薦』とする）129名（55.1%）、社会人入学試験での入学者（以下『社会人』とする）9名（3.8%）、無回答1名（0.4%）であった。

2. 本学科入学の動機、希望の程度、介護福祉士志望の理由 (図1-1、図1-2、図1-3)

1) 本学を志望した理由 (複数回答)

本学を志望した理由として、「資格取得が豊富」が114名 (48.7%) で最も多く、次いで「施設・設備が整っている」88名 (37.6%)、「就職に有利」56名 (23.9%) であった。

入学選抜種別では、『一般』で「資格取得が豊富」「入試難易度」「施設・設備が整っている」の順に多く、『推薦』で「資格取得が豊富」「施設・設備が整っている」「就職に有利」、『社会人』では「学費が安い」「資格取得が豊富」「施設・設備が整っている」の順であった。

2) 本学科入学希望の程度

本学科の入学を「とても希望していた」97名 (41.5%)、「希望していた」113名 (48.3%) であった。

3) 介護福祉士志望の理由 (複数回答)

介護福祉士志望の理由として最も多かったのは「やりがいのある仕事だと思ったから」121名 (51.7%)、次いで「人や社会のために役立つ仕事だと思ったから」95名 (40.6%)、「ボランティアでの体験を通して」85名 (36.3%) であった。

入学選抜種別では、3種別とも「やりがいのある仕事」が最も多い。その他の項目としては、『一般』では「人や社会のために役立つ仕事」、『推薦』では「ボランティアでの体験」「将来性のある仕事」、『社会人』では「国家資格を得られる」「将来性のある仕事」「人や社会のために役立つ仕事」が上位を占めていた。

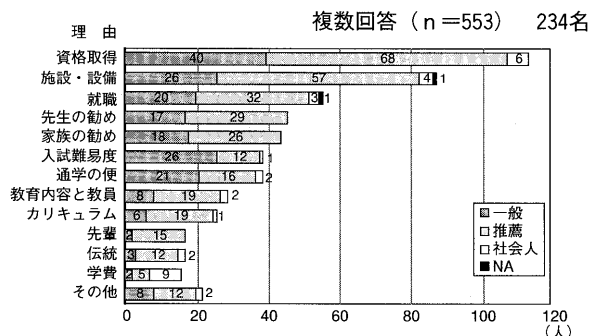


図1-1 本学志望の理由

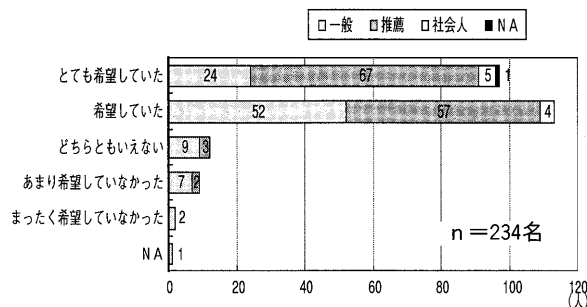


図1-2 本学科入学希望の程度

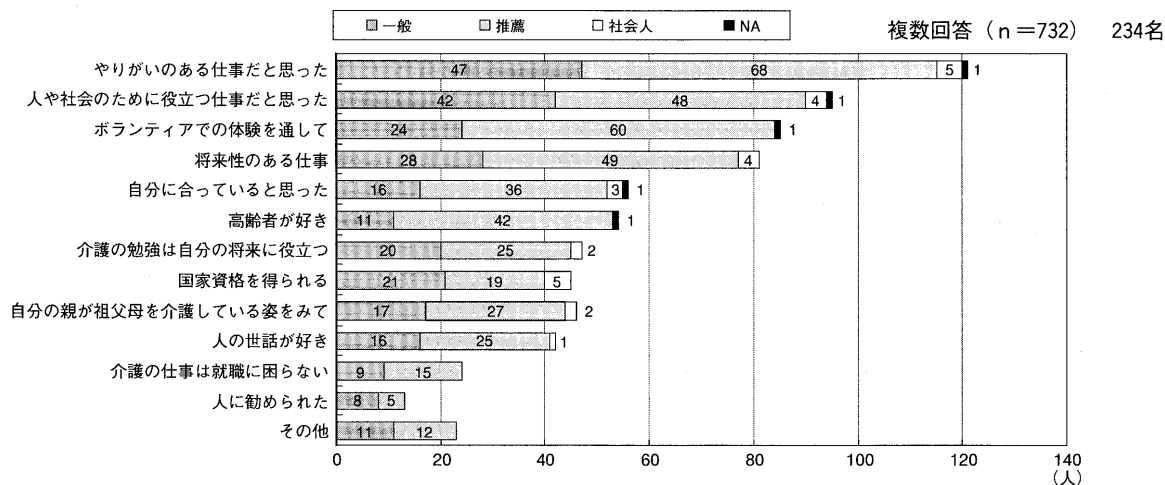


図1-3 介護福祉士志望の理由

3. 在学中の学業への取り組みと教育・学生生活への評価

1) 在学中の学業への取り組み

(1) 在学中に習得した能力 (図2)

本学の期待する学生像9項目を設定して回答を求めた。

「とても身についた」「まあまあ身についた」と回答した合計数は、「人間の尊厳を守ろうとする倫理観」が176名(75.2%)で最も多かった。次いで「人の痛みや苦しみに共感できる感性」

感できる感性」159名(67.9%)、「人間や人々の生活、社会への関心を持てる力」155名(66.2%)であった。

一方、少ない項目は、「知識と技術の習得のための自己研鑽を重ねていく姿勢」で110名(47.0%)、「気づきや発見ができる創造性の豊かさ」116名(49.6%)、「主体的に学ぼうとする姿勢」120名(51.3%)であった。この3項目は「どちらともいえない」と回答した人がそれぞれ100名(42.7%)、94名(40.2%)、91名(38.9%)であった。

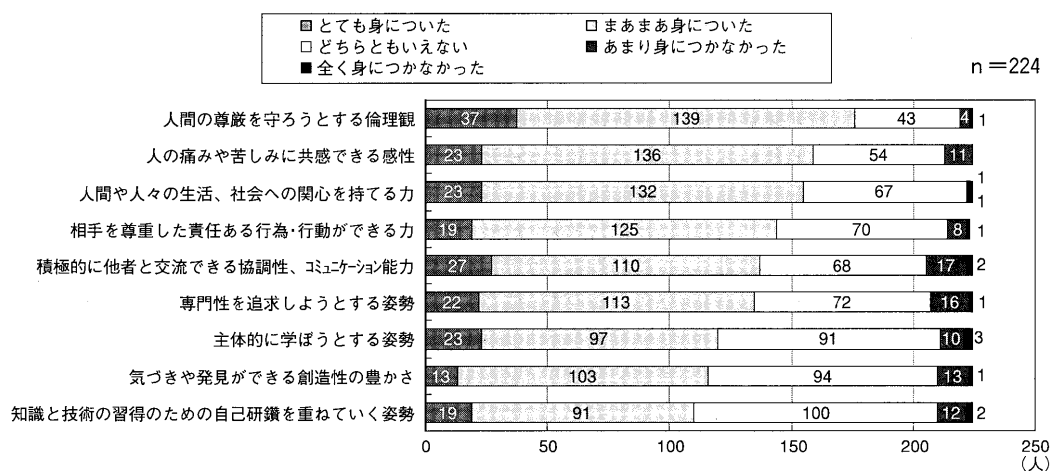


図2 在学中に習得した能力

(2) 在学中の学業の継続について (表2-1、表2-2)

在学中に、学業を諦めようと思ったことがある人は30名(12.8%)であった。その時期は1年次前期15名(50.0%)、1年次後期9名(30.0%)、2年次前期6名(20.0%)であった。

学業継続を諦めようとしたきっかけや理由(複数回答)は、『授業に関すること』28件で、「難しくついていけない」7件、「つまらない、おもしろくない」9件などであった。『実習に関すること』は22件で、「実習開始に伴う不安」8件、「実習を体験して介護の仕事は自分に向かないと感じた」9件などであった。『人間関係トラブル』は7件で、そのうち「クラスメイトとの人間関係」が6件であった。

表2-1 学業を諦めようとしたことの有無・時期

有無	合計	内訳	時期	人数
有	30 (12.8)	⇒	1年次前期	15名
無	198 (84.6)		1年次後期	9名
NA	6 (2.6)		2年次前期	6名
合計	234 (100.0)		2年次後期	0名

人数(%)

人数 (%)

表2-2 学業を諦めようと思ったきっかけ・理由 複数回答 (n=57)

分類	きっかけ・理由	計
授業	1. 難しくついていけない	7
	2. 課題が多く大変	1
	3. つまらない・おもしろくない	9
	4. 成績が悪い	4
	5. その他	7
実習	1. 開始に伴う不安	8
	2. 実習内容がきつい	2
	3. 施設指導者、利用者との人間関係のトラブル	0
	4. 実習成績が悪い	1
	5. 実習を経験して介護の仕事は自分に向かないと感じた	9
	6. その他	2
人間関係	1. クラスメイトとの人間関係	6
	2. 先輩との人間関係	0
	3. 後輩との人間関係	0
	4. 教員との人間関係	0
	5. その他	1

2) 在学中の教育・学生生活の満足度

(1) 全体評価 (図3)

「本学で学んでよかったか」の間に225名(96.2%)から回答が得られた。「とても良かった」144名(61.5%)、「まあまあ良かった」73名(31.2%)、「どちらともいえない」8名(3.4%)であった。「あまり良くなかった」「全く良くなかった」と回答した人はいなかった。

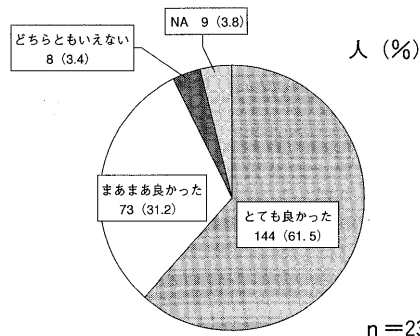


図3 本学での学びの全体評価

(2) 教育・学生生活に対する項目別満足度 (表3)

在学中の学生生活に対する満足度について23項目を設定し回答を求めた。

①教育内容

教育内容で満足度の平均値が高い項目は、「介護福祉実習での体験」(4.2±0.8)、次いで「ゼミ・研究活動」(4.0±0.9)、「学内での講義・演習の内容」(4.0±0.7)、「カリキュラム編成」(3.9±0.7)であった。

②短大の施設・設備

本学の施設・設備で満足度の平均値が高い項目は、「実習室の設備・環境」(4.2±0.7)、次いで「図書館の設備・環境・蔵書」(3.9±0.9)、「OA教室の設備・環境」(3.9±0.8)、「教室の環境」(3.8±0.9)であった。

一方、低かった項目は、「売店の環境・品数」(3.2±1.0)、次いで「更衣室の環境」(3.4±0.9)、「食堂の環境・メニュー」(3.5±0.5)、「休憩場所」(3.5±1.0)であった。

③学生生活

学生生活で満足度の平均値が高い項目は「クラスメイトとの交流」(4.0±0.8)、「学生生活全体を通して」(4.0±0.8)、次いで「進路(就職・進学)に関する支援」(3.9±0.9)「教員との交流」(3.8±0.9)であった。

一方、低かった項目は、「看護学科学生との交流」(2.9±0.9)、「介護福祉学科先輩・後輩との交流」(3.1±1.0)、「サークル活動」(3.2±1.0)、「学内行事」(3.3±1.0)であった。

表3 在学中の学生生活に対する満足度

(人数)

分類	項目	5	4	3	2	1	計	平均	SD
教育内容	1. カリキュラム編成	40	130	43	8	0	221	3.9	0.7
	2. 学内での講義・演習の内容	46	131	37	6	1	221	4.0	0.7
	3. ゼミ・研究活動	58	108	39	11	3	219	4.0	0.9
	4. 介護福祉実習での体験	76	119	17	7	1	220	4.2	0.8
短大の施設・設備	5. 教室の環境	40	121	37	23	1	222	3.8	0.9
	6. 実習室の設備・環境	72	124	24	2	0	222	4.2	0.7
	7. OA教室の設備・環境	47	113	56	4	2	222	3.9	0.8
	8. 図書館の設備・環境・蔵書	56	105	45	14	1	221	3.9	0.9
	9. 売店の環境・品数	15	79	70	50	7	221	3.2	1.0
	10. 食堂の環境・メニュー	28	87	68	35	4	222	3.5	0.5
	11. 更衣室の環境	25	73	87	32	4	221	3.4	0.9
	12. 休憩場所	36	80	63	36	4	219	3.5	1.0
	13. キャンパス環境	52	113	45	11	1	222	3.9	0.8
学生生活	14. 進路(就職・進学)に関する支援	64	98	38	18	2	220	3.9	0.9
	15. クラスメイトとの交流	64	105	42	10	1	222	4.0	0.8
	16. 介護福祉学科先輩・後輩との交流	23	40	108	37	12	220	3.1	1.0
	17. 看護学科学生との交流	13	31	112	48	17	221	2.9	0.9
	18. 教員との交流(関係)	52	83	68	13	4	220	3.8	0.9
	19. サークル活動	25	44	108	32	10	219	3.2	1.0
	20. 学内行事	22	61	96	31	10	220	3.3	1.0
	21. ボランティア活動	17	75	101	21	6	220	3.4	0.9
	22. 学生生活全体を通して	53	117	42	7	1	220	4.0	0.8
	23. 奨学金制度	18	53	130	7	4	212	3.4	0.8

5:とても満足している 4:まあまあ満足している 3:どちらともいえない

2:あまり満足していない 1:まったく満足していない

複数回答 (n=620) 220名

3) 本学への期待 (図4)

「本学に期待すること」を複数回答で求めたところ220名(94.0%)から回答があった。「教育面(講義・演習・ゼミ等)の改善・充実」が92名(41.8%)、次いで「就職・進学への支援体制の充実」72名(32.7%)、「地域・地元での活躍・貢献」53名(24.1%)、「卒後教育」51名(23.2%)、「卒業生へのサービスの改善・充実」「4年制大学への改組」がそれぞれ49名(22.3%)であった。

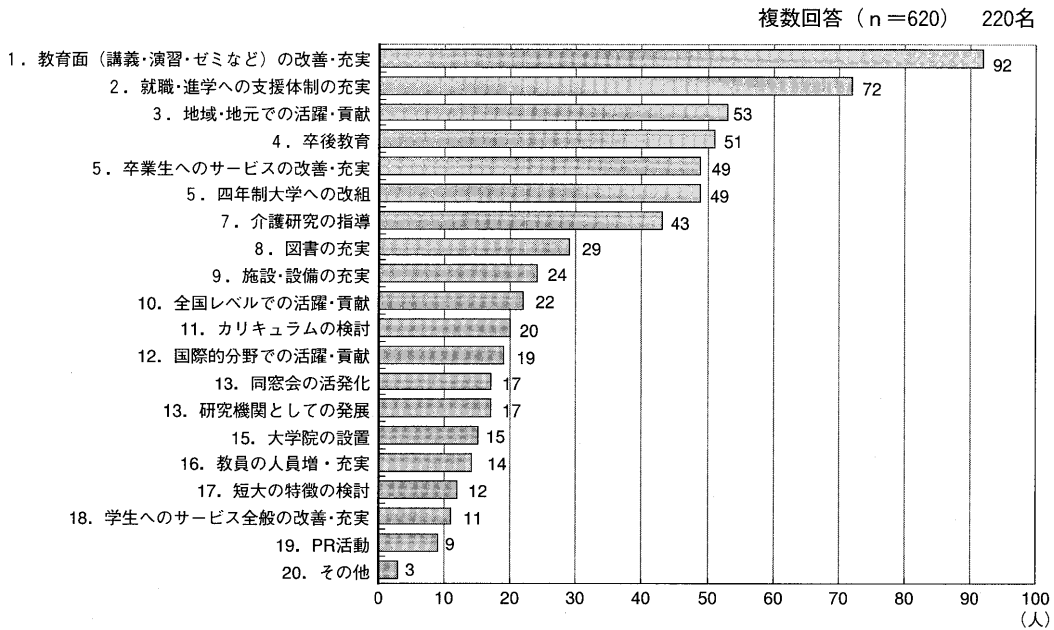


図4 本学に期待すること

4. 自己啓発について

1) 卒業後の資格取得、進学 (図5-1、図5-2、図5-3)

本学卒業後に新たに取得した資格が「有」と回答した人は234名中37名(15.8%)であった。その内訳は「ケアマネージャー」が16名、「社会福祉士」4名であった。

また、今後取得したい資格が「ある」と回答した人は198名(84.6%)であった。どのような資格か、複数回答で求めたところ「ケアマネージャー」が159名(80.3%)で最も多く、次いで「社会福祉士」が53名(26.8%)であった。

本学介護福祉学科卒業後に進学した人は18名(7.7%)で、その内訳は大学14名、専門学校3名、大学院1名であった。

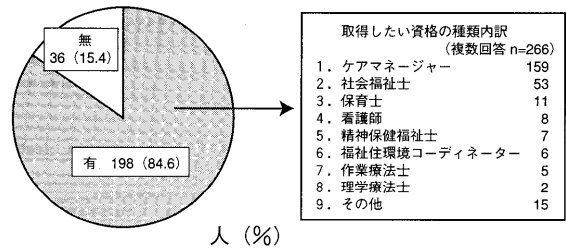


図5-2 今後習得したい資格の有無 n=234

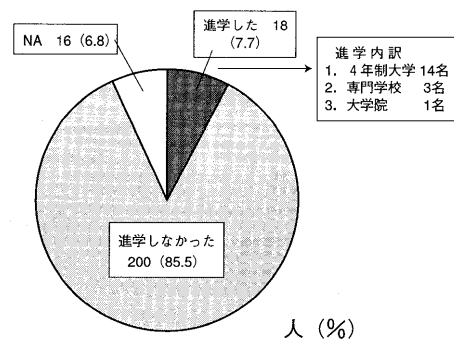


図5-3 卒業進学の有無 n=234

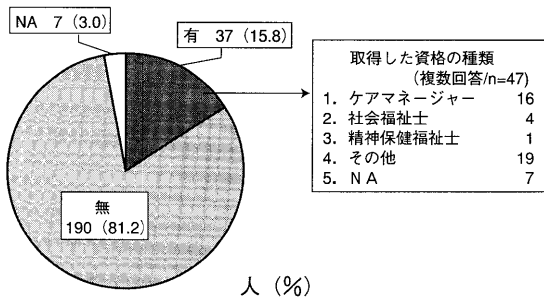


図5-1 卒業後習得した資格の有無 n=234

2) 研修等の体験 (表4-1、表4-2、表4-3)

(1) 職場内における研修等の体験

卒業職場内で研修や研究発表などの経験があると回答した人は141名(60.3%)であった。

「研修(勉強会)に参加した」128名(90.8%)、「事例発表会、研究発表会などで発表した」24名(17.0%)、「研究活動に参加した」19名

(13.5%)であった。

(2) 職場外における研修等の体験

卒後職場外で研修や研究発表などの経験があると回答した人は147名(62.8%)であった。

「福祉職員を対象とした新任研修」80名(54.4%)、「福祉職員を対象とした中堅職員研修」48名(32.7%)、「認知症高齢者介護に関する実践研修」34名(23.1%)、「福祉職員を対象とした指導者研修」18名(12.2%)などであった。

3) 団体への所属状況

介護福祉士の職能団体である「日本介護福祉士会」への加入者は35名(15.9%)、「介護・福祉に関する学会」への加入者は6名(2.6%)であった。

4) 専門的知識、技術の習得

(1) 在学中にもっと勉強しておけばよかった科目(複数回答、図6)

在学中もっと勉強しておけばよかった科目が「ある」と回答した人は218名(93.2%)であった。その中で「医学一般」が152名(69.7%)、「社会福祉概論」「レクリエーション」がそれぞれ64名(29.4%)、「介護技術」59名(27.1%)、「社会福祉援助技術」「形態別介護技術」がそれぞれ54名(24.8%)であった。

表4-1 職場内における研修等の体験内容 複数回答 (n=189)

内 容	件 数
1. 研修(勉強会)に参加した	128(90.8)
2. 事例発表会、研究発表会等で発表した	24(17.0)
3. 研究活動(事例研究含む)に参加した	19(13.5)
4. その他、自己啓発のために取り組んでいることがある	18(12.8)

人数(%) / 141名中

表4-2 職場外における研修等の体験内容 複数回答 (n=230)

内 容	件 数
1. 福祉職員を対象とした新任研修	80(54.4)
2. 福祉職員を対象とした中堅職員研修	48(32.7)
5. 認知症高齢者介護に関する実践研修	34(23.1)
3. 福祉職員を対象とした指導者研修	18(12.2)
6. 認知症高齢者介護に関するリーダー研修	8(5.4)
7. 認知症高齢者を対象とした事業に関する管理者研修	5(3.4)
4. 福祉職員を対象とした施設長研修	2(1.4)
8. その他	35(23.8)

人数(%) / 147名中

表4-3 団体への所属状況 複数回答 (n=234)

団 体	加入している	加入していない	NA
日本介護福祉士会	35(15.9)	167(71.4)	32(13.7)
介護・福祉に関する学会	6(2.6)	198(84.6)	30(12.8)

人数(%)

複数回答 (n=818) 218名

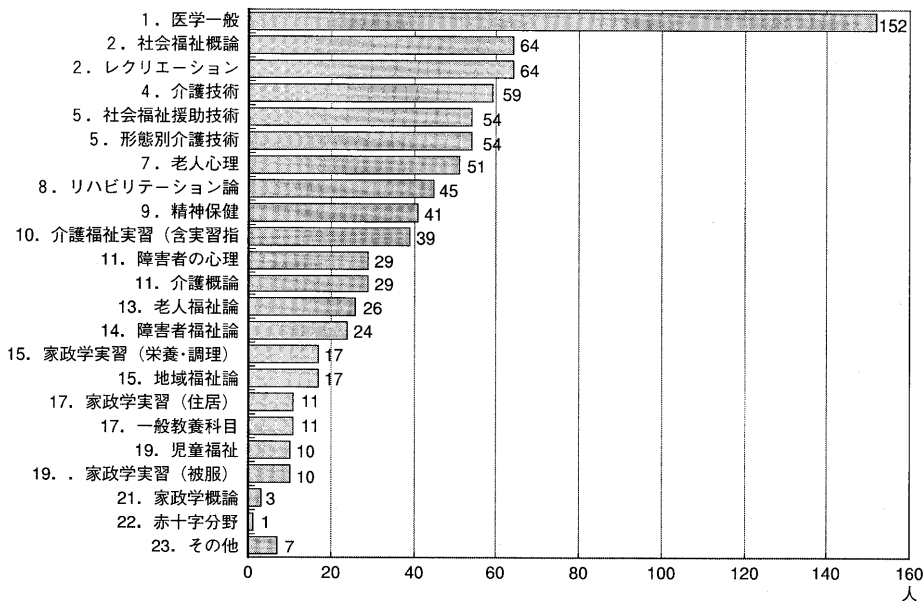


図6 在学中もっと勉強しておけばよかった科目

(2) 今後高めたい知識、技術 (5つまで回答、図7)

「今後さらに高めたい知識や技術」について226名 (96.6%) から回答があった。「医学知識」98名 (43.4%)、「介護保険制度に関する知識」97名 (42.9%)、「福祉に関する制

度・法律の知識」78名 (34.5%)、「認知症高齢者への介護知識・技術」74名 (32.7%)、「ケアマネジメントに関する知識・技術」65名 (28.8%)、「ケアプランに関する知識・技術」62名 (27.4%) などであった。

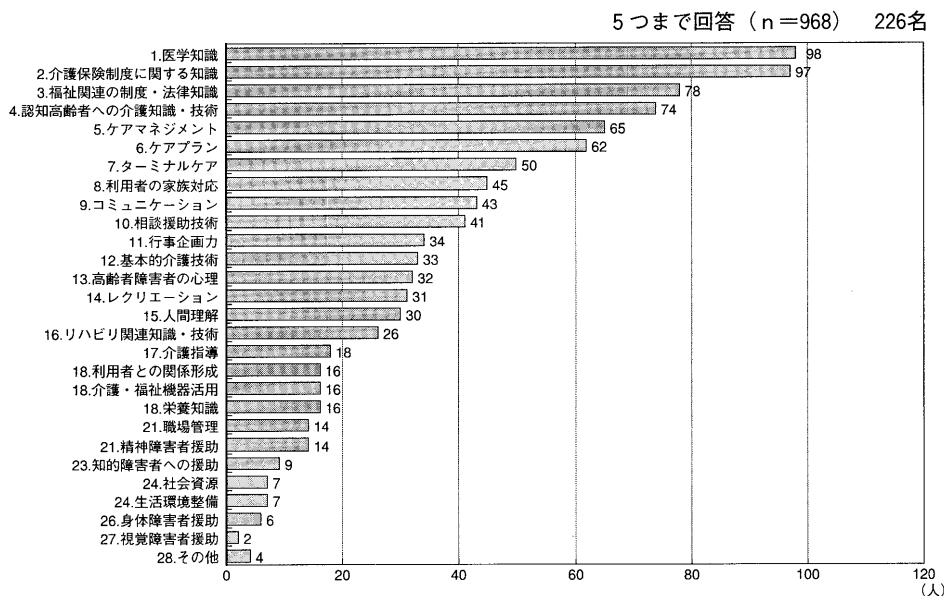


図7 今後高めたい知識、技術

5) 介護福祉専門職に必要な資質 (3つまで回答、図8)

「適正な観察力と判断力がある」が234名中143名 (61.1%)、「利用者を理解する態度

を持っている」129名 (55.1%)、「人間尊重の価値観を持っている」77名 (32.9%)、「介護の仕事が好きである」73名 (31.2%)、「健康である」45名 (19.2%) などであった。

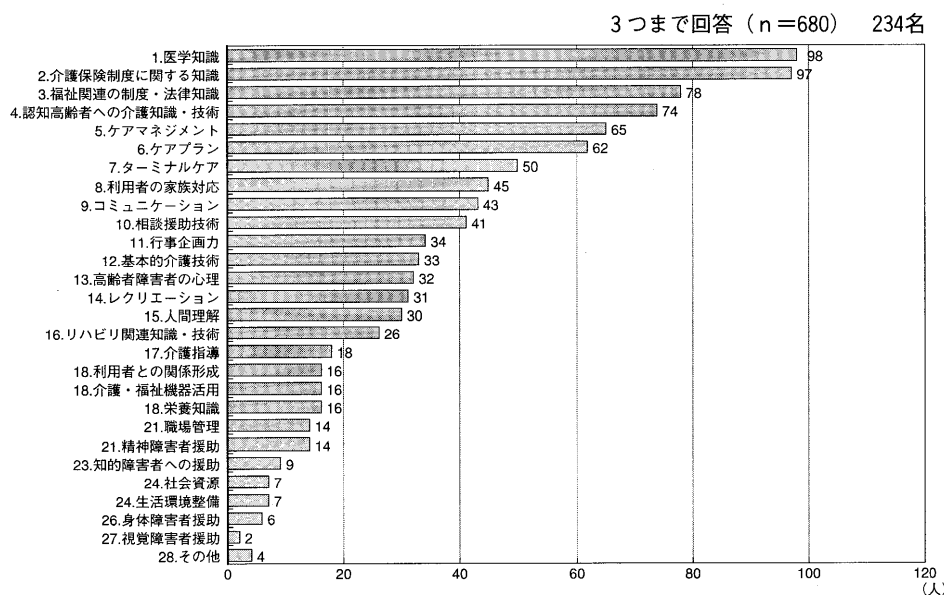


図8 介護福祉専門職に必要な資質

IV. 考察

1. 在学中の学業への取り組み、教育・学生生活への評価

1) 在学中の学業への取り組み

(1) 在学中に習得した能力

「人間や生活、社会への関心を持てる力」、
「人間の尊厳を守ろうとする倫理観」、「人の痛みや苦しみに共感できる感性」では「習得できた」と回答している人が比較的多いのに
対し、「知識と技術の習得のために自己研鑽を重ねていく姿勢」や「気づきや発見ができる創造性の豊かさ」、「主体的に学ぼうとする姿勢」は比較的小さい傾向であった。

今、介護福祉士制度は大きな変革期を迎えており、「介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会報告書」¹⁾では、介護福祉士の養成カリキュラムの柱を「人間と社会」「介護」「からだところのしくみ」としている。

調査結果から、本学卒業生は介護福祉士の基盤をなす人間・社会への関心、人間の尊厳、倫理観、共感など「人間と社会」の部分について在学中に習得できていると考えられる。一方で、介護専門職の資質向上のために重要な要素と思われる自己研鑽、創造性、主体性については習得できているとはいいがたく、教育方法のさらなる検討が必要と考える。

(2) 在学中の学業の継続について

在学中に学業の継続を諦めようとしたことがある人は比較的小さい。その時期は80%が1年次であった。諦めようと思ったきっかけや理由は、授業では、「難しくついていけない」、「つまらない・おもしろくない」、実習では、「開始に伴う不安」、「実習を経験して介護の仕事は自分に向かないと感じた」、人間関係では「クラスメイトとの人間関係」が多かった。

本学入学までの学習環境や友人関係が大きく変化する中で、入学と同時に専門的な学習が始まる。また、介護福祉実習は高校生までのボランティア活動とは違い資格取得と結びつくものであり、実習を通して厳しさを知り、それまで抱いていた理想や夢と現実のギャップ等が学業の継続に対する不安要因のひとつであると考えられる。2年次になると不安や心配、悩みを周囲の様々な支援や自分自身の努力に

よって乗り越えることができ、学業を継続できるようになるものと考えられる。

これらのことから、1年次前期、特に入学時のオリエンテーションをはじめとして、クラスアドバイザーや教員が欠席や学業成績など学生の変化に早期に気づき、学生個々へ関わる機会を多く持ち、学生の不安や悩みを受け止めて指導していくことが重要と考える。また、実習では学生がどのようなことに不安を抱いているのか実習前に明確にし、さらに個別指導を強化していく必要がある。

2) 在学中の教育・学生生活の満足度

本学への全体評価では90%以上の人が本学で学んでよかったと回答していることから、全体的には本学における在学中の満足度は高いと考えられる。

具体的な項目でみると、教育内容では、「介護福祉実習での体験」、「学内での講義・演習の内容」、「ゼミ・研究活動」、「カリキュラム編成」の設定した4項目すべてにおいて満足度が高い傾向であった。

施設・設備面では、「実習室の設備・環境」、「図書館の設備・環境・蔵書」、「キャンパス環境」、「OA教室の設備・環境」で満足度が高い傾向であった。しかし、「売店の環境・品数」、「更衣室の環境」、「食堂の環境メニュー」に関する満足度は低かった。

本学の売店や更衣室は狭く窓がない。また、食堂・売店は学校規模が小さいことも関連し、メニューや品数など学生のニーズに十分対応できていない状況であり、満足度の低さにつながっているものと考えられる。

学生生活では、「クラスメイトとの交流」、「進路(就職・進学)に関する支援」「教員との交流」で満足度が高い傾向であった。大高ら²⁾も述べているように、クラスメイトとの交流では、同じ目的に向かって2年間過ごしたことで困難なことや悩みなどお互いの支えによって乗り越えてきたことが関連しているのではないかと考える。進路に関する支援では、父母の会の協力を得て学科教員全員で求人開拓を実施している。また、本学科は1学年50名の定員で比較的小さい学生個々がみえやすく、このことが「教員との交流」や「進路に関する支援」の満足度が高いことに影響しているものと考えられる。

一方、「看護学科学生との交流」、「介護福祉学科先輩・後輩」、「サークル活動」では満足度は低い傾向で、大高らの調査³⁾と同様の傾向であった。特に本学は看護学科と介護福祉学科の2学科からなる短大であり、看護と介護福祉の協働・連携が求められる時代において、その素地を学ぶ絶好の場であると考えられる。今後、学生同士が交流できる学内行事や両学科に共通する内容の合同講義など、学生のニーズに応えていく方策が必要と考える。

2. 自己啓発

1) 卒後の資格取得、進学

前掲報告書⁴⁾では、「業務規定の見直し」のなかで介護福祉士の資質向上の責務が打ちだされている。さらに、「資格取得後の生涯を通じた能力開発とキャリアアップ」という点では、重度の認知症や障害者への対応など専門介護福祉士の認定を具体的支援策として掲げている。

介護保険制度開始以来、ケアマネージャーの資格取得が介護福祉士のキャリアアップの証のひとつという印象があり、本調査も同様の結果であると考えられる。今後、専門介護福祉士の認定を推進することで、介護福祉士の専門性が発揮できる場が広がると予測されることから、本学科卒業生の積極的な自己研鑽が期待される。

2) 研修などの体験

本調査結果から、職場内では多くの研修や勉強会が行われていることが明らかになった。これは、介護福祉を取り巻く環境が大きく変化する中で、より質の高いサービス提供のための施設、事業所等の努力の結果であるとも考えられる。

一方、職場外における研修等の体験は少なかった。介護職員が専門職として資質を高めるためには、介護実践を検証すること、創意工夫した事例を公の場で発表していくことが重要である。卒業生が積極的に研究活動や発表ができるよう、学習の場の提供、研究活動への支援、研究会の実施など、介護専門職の職能団体の活性化もあわせながら現場と連携・協力体制を整備していくことが重要と考える。

3) 専門的知識、技術の習得について

「在学中にもっと勉強しておけばよかった

と思う科目」「今後高めたい知識、技術」いずれの質問でも「医学一般」が圧倒的に多かった。

「医学一般」は平成12年度のカリキュラム改正により時間増になった科目である。卒業生の就職先は、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護療養型病院など、医療依存度の高い利用者に関わる場合も多く、自身の医学知識が現実のものとして不十分であることを認識している結果と考えられる。「医学一般」は全国共通試験においても正解率の低さを指摘されているところである。

また、「今後高めたい知識技術」では、介護福祉を取り巻く法律、制度、ケアマネジメントやケアプランに関する内容が上位を占めていた。

鍋島ら⁶⁾が述べているように、施設や事業所などに出向いて実施するカンファレンス、地域の拠点として地域住民や実習施設職員参加の卒後教育の開催、養成校主催の研究会の開催など、卒後教育のあり方を創意工夫することも重要と考える。

4) 介護福祉専門職に必要な資質

介護福祉専門職に必要な資質については、「適切な観察力と判断力があること」、「利用者を理解する態度を持っていること」、「人間尊重の価値観を持っていること」が多かった。

介護福祉士は、「専門的知識、技術をもって心身の状況に応じた介護等を行うことを業とする者」と定義規定が改正される見通しで、12項目の「求められる介護福祉士像」が打ちだされた⁷⁾。これらを実現していくために、卒業生が「介護福祉専門職に必要な資質」として挙げた上位の項目は重要なものであり、その素地を習得できるよう、基礎教育をさらに充実させていくことが重要であると考えられる。

本学に期待する事柄では「教育面での充実」、「卒後教育」、「卒業生へのサービスの改善・充実」がいずれも上位を占めていた。

卒後教育は本来、職能団体を中心となって組織的に実践していくことが必要である。しかし、歴史の浅い介護福祉士の職能団体の組織率は未だ低く、さらに社会的評価や報酬も適切とはいえない。働く職場環境や条件整備と共に、介護福祉士養成校は現場や職能団体との連携を図りながら卒業生の自己啓発の継

続に関わっていくことが必要と考える。

V. 結論

本学科卒業生を対象とした調査から以下のことが明らかになった。

1. 在学中の学業への取り組み、教育・学生生活に対する満足度

1) 在学中の学業への取り組み

在学中に習得した能力は、「人間の尊厳を守ろうとする倫理観」、「人の痛みや苦しみに共感できる感性」、「人間や人々の生活、社会への関心を持てる力」の項目で高く、「知識と技術の習得のための自己研鑽を重ねていく姿勢」、「気づきや発見ができる創造性の豊かさ」、「主体的に学ぼうとする姿勢」の項目で低かった。また、在学中に学業を諦めようと思ったことがある人は12.8%、時期は1年次が80.0%、理由は「授業に関すること」28件、「実習に関すること」22件、「人間関係」7件であった。

2) 在学中の教育・学生生活の満足度

設定した23項目中、平均値が4.0以上は6項目、3.0未満は1項目であった。「介護福祉実習での体験」「実習室の設備・環境」「学内での講義・演習の内容」「ゼミ・研究活動」「クラスメイトとの交流」「学生生活全体を通して」の項目で高く、「看護学科学生との交流」の項目で低い傾向にあった。

2. 自己啓発

卒後、資格取得や進学をした人は少なく、今後取得したい資格がある人は84.6%であった。また、研修等を体験した人は職場内、職場外いずれも60%以上であった。職能団体の加入者は15.9%、学会の加入者は2.6%であった。

「在学中にもっと勉強しておけばよかった科目」、「今後高めたい知識、技術」は、いずれも「医学に関する知識」が多かった。

介護福祉専門職に必要な資質は「適正な観察力と判断力があること」、「利用者を理解する態度をもっていること」、「人間尊重の価値観を持っていること」の項目が多かった。

謝辞

今回の調査にご協力いただいた卒業生の皆様に深謝いたします。

引用文献

- 1) 社会保障審議会-福祉部会：介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会報告書、厚生労働省、p24-26, 2006.
- 2) 大高恵美他：日本赤十字秋田短期大学看護学科卒業生の動向調査（第2報）－社会人経験の有無と学業に対する取り組み、学生生活に対する満足度の関係－、日本赤十字秋田短期大学紀要 No11, p82, 2006.
- 3) 2) 前掲, p81.
- 4) 1) 前掲, p24-26
- 5) 1) 前掲, p24-26
- 6) 鍋島恵美子他：卒後教育の効果に関する研究、介護福祉教育 No24, p58-59, 2007.
- 7) 1) 前掲, p24-26

参考文献

- ・伊藤美奈加他：日本赤十字秋田短期大学看護学科卒業生の動向調査（第1報）－卒業生の就業・進学状況と卒後の資格取得の実態－、日本赤十字秋田短期大学紀要 No11, 2006.
- ・(財)介護労働安定センター：介護労働者のストレスに関する調査報告書、平成17年.
- ・(財)介護労働安定センター：データからみる介護労働の実態、月刊総合ケア Vol.17 No5, 2007.
- ・小林光俊（監）：専門介護福祉士の展望、北隆館、2006.
- ・牟田能子他：日本赤十字秋田短期大学看護学科卒業生の動向調査（第3報）－卒業生による在学中の教育評価－、日本赤十字秋田短期大学紀要 No11, 2006.
- ・鍋島恵美子 他：卒後教育の効果に関する研究、介護福祉教育 No24, p58-59, 2007.
- ・大高恵美他：日本赤十字秋田短期大学看護学科卒業生の動向調査（第2報）－社会人経験の有無と学業に対する取り組み、学生生活に対する満足度の関係－、日本赤十字秋田短期大学紀要 No11, 2006.
- ・渋谷正子他：本学介護福祉学科卒業生の意識調査 No5, p39-42, 2000.
- ・吉井珠代：介護福祉士の質の向上を目指した卒後教育、大阪城南女子短期大学研究紀要 Vol37, 2003.